

## 会 議 録

### 1 会議名

令和4年度第2回上越市社会教育委員・上越市立公民館運営審議会委員会議

### 2 議題（公開・非公開の別）

- (1) 情報共有の取組について（公開）
- (2) 令和5年度社会教育の方針作成について（公開）
- (3) その他（公開）

### 3 開催日時

令和4年8月26日（金） 午後2時～3時10分

### 4 開催場所

上越市教育プラザ研修棟3階 大会議室

※オンライン会議（会場参加とオンライン参加により実施）

### 5 傍聴人の数

0人

### 6 非公開の理由

—

### 7 出席した者（傍聴人を除く。）氏名（敬称略）

- ・委員：（会場参加）茨木真、川上優子、小林榮、流石光信、保坂和彦、  
百沢ちかい、渡邊恵美  
（オンライン参加）石田浩久、江村奈緒美、勝俣将明、小林英子、  
佐藤ゆかり、鈴木重行、高橋京子、森田浩、山川美香
- ・事務局：小嶋栄子社会教育課長（オンライン）、宮崎英紀参事、福山亮副課長、  
岩崎晃副課長、関間哲也係長、北川智恵主任

### 8 発言の内容（要旨）

- (1) 開会
- (2) 保坂委員長挨拶

(3) 議事

① 情報共有の取組について

— 資料No.1 に基づき事務局説明 —

保坂委員長：皆さんから事前にご提出いただいた情報共有シートをまとめた資料1-2をお読みいただき、色々と感じられたことがあろうかと思う。

まずは、「1. ご自身が携わっている社会教育活動に関し、課題や悩みなどがありましたらお書きください」について、意見や詳しく聞いてみたいことなどがあればご発言をお願いしたい。

流石委員：1 ページの2 の地域青少年育成会議についての意見について、当初は事務局を学校におかないという約束であった。少なくとも13区は地域で事務局を担当している。合併前上越市は場所によって中学校区で区切ると小学校区が分断される場所もあり、うまくいかなかった。コミュニティスクールへの移行もあり、形骸化している部分もあると思われる。地域が事務局としてうまく機能しないため、学校がやらざるを得ないのが問題だと思う。市民の社会教育に対する意識の問題なのではないかと考える。また、中学校単位から小学校単位に戻すとの意見であるが、これはこれまでの流れに逆行することになると考える。

石田委員：中学校区の組織の中に各小学校区の組織があり、それぞれ独自の活動をしているのが実態である。また、地域学校協働本部として考える場合、学校運営協議会と両輪で、中学校区単位よりもむしろ小学校区単位で一緒に活動していくべきだと考えている。コミュニティスクールも平成21年から中身や考え方が変わってきているので、地域青少年育成会議も見直しが必要なのではないかという意見である。

勝俣委員：中学校では学校運営協議会の中で地域コーディネーターなどが全体を見ながら積極的に動いてくれており、学校主体というよりは地域主体で活動できているという実態がある。

保坂委員長：学校としては学校単位で地域の人たちと連携しながら取り組んでいくほうが、おそらく小回りが利くという提案なのではないかと思う。地域青少年育成会議を活性化していくには、各小学校区での様々な活動が反映されていくというのが基本的な考え方だと思う。事務局の役割を地域・学校のどこが担うかという点については皆さんご意見いかがですか。

小林(榮)委員：春日地区では、春日中学校と春日小学校、高志小学校の3校で、比較的シンプルな構成なので事務局を地域でやっている。学校運営協議会が3つあるわけで、学校のグランドデザインを作る際も、中学校のグランドデザインの基本を各小学校が理解して、地域の実情に合わせて連携を取りながら進めていくという流れで中学校区単位の良さを感じている。一方で、他地区では、複数の中学校区が混在する小学校もあり、いろんな課題があるのは事実で、関係者の知恵で解決していかななくてはいけないのかなと思う。

保坂委員長：それでは、続いて「2. ご自身が携わっている社会教育活動に関し、活動を展開するうえで工夫している点や、課題解決に効果的と感じた取組などがありましたらお書きください」について、意見や詳しく聞いてみたいことなどがあればご発言をお願いしたい。

江村委員：私が参加している団体では、昨年、一昨年も感染対策に気を付けながら総会・研修を実施していた。医療の専門家が感染症対策での注意点を検討し、コロナ禍においても対策を徹底して対面での集会を工夫しながら行っていた。

渡邊副委員長：3ページの1に、情報機器が活躍しているとの記載がある。今回のオンライン会議もそうだが、コロナで対面が規制されて、オンラインが増えてきているが、コロナ禍1～2年目よりもここ最近、オンラインよりもやっぱり対面がいいという方が増えてきていると感じている。感染対策に気を付けて、実際に顔を合わせて参加したい

と考えている人が多いと感じる。一方で、オンラインという手法を活用すると、もっと面白いことができるという事を発見できたとも感じている。どちらか一方に頼るのではなく、いいところを取り入れていくと活動の幅が広がるのではないかと思う。

茨木委員：オーレンプラザで活動している団体の発表会がコロナで開催できなくなり、YouTube で配信をした。再生回数を見ると、会場開催の場合の3倍近い方から視聴いただくことができたようだ。世代的にそういった手法が苦手な人も多かったが、遠方の孫やひ孫が見てくれたと喜ばれた。芸術関係は、本来は生で観てもらいたい、感じてもらいたい分野ではあるが、一つの代替え手段としてオンライン配信という手法も非常に役に立つと感じている。

保坂委員長：渡邊副委員長のお話にもあったように、オンラインだけに頼ることなく、目的に合った手法を活用していければいいのかなと思う。続いて、「3. 社会教育委員として、市の社会教育事業等に関し、日頃感じていることや実際に事業に参加しての意見・提案などがありましたらお書きください」について、意見や詳しく聞いてみたいことなどがあればご発言をお願いしたい。

川上委員：7 ページの5にあるように、学校で開催される人権を考える講話会への参加者が少なく残念に思っている。子どもたちの言葉づかいについて、家族間での言葉づかいが気になるという話を聞く。親子で人権に関する講話を聴いて、日頃から人権感覚を高めていかななくてはいけないのではないかと感じている。町内会の集まりでも、シニア世代の方の言葉づかいで気になることがある。なかなか改善されないで、町内会で出前講座を使ってみんなで人権意識を高めていってとは役員へ提案したこともある。

保坂委員：一番大事なことだと思う。学校教育でも、人権感覚を高めるよう様々な教育を行っているが、子どもの周りにはいる家庭や地域の大人が逆

行した言葉づかいをしては意味がないので、大人の責任として  
そういった感覚を高めていく必要があると思っている。

山川委員：具体的にはどういったことかお聞きしたい。

川上委員：家庭内の会話で、家族ゆえにストレートで相手を傷つけるような言葉づかいが見られる時がある。親子で人権に関する講話などを聴いていけば、人権感覚を磨いていけるのかなと考えている。

山川委員：私は小学校就学期の子どもを持つ保護者を対象に、子どもへの声かけや関わり方のアドバイスなどの支援を行っている。最近の保護者は忙しくて、立ち止まりたいのに自分自身で立ち止まる時間をなかなか作れないのではと実感している。子どもとの関わり方について、他者からの指摘で見直したり、振り返って気付いたりすることができると思うので、こういう機会がたくさんあればいいのかなと思う。学校の先生とは違う立場の私たちのような者が関わるのが有効性があるのかなと感じて活動している。

渡邊副委員長：この設問で、具体的な提案を寄せられた方が何人かおり、すごくいいことだと思っている。6 ページの3 の謙信K I D Sプロジェクトに、祇園祭を学ぶ講座を取り入れてはという提案は個人的に大賛成で、地元の人でもよく知らない上越まつり全体を知る、地域の歴史を知るいい機会になるのではないかなと思う。7 ページの9 の公民館事業等で中高生の活躍の場を設けるといいと思う。各地区公民館単位でどういう形で参加できるかいろいろ考えられると思う。こういった具体的な意見を出していただけると周りがすごく参考になると思うし、行政側にとってもヒントが詰まっていると思う。行政の皆さんにも共有していただいて検討していただければと思う。

保坂委員長：謙信K I D Sプロジェクトで「まつり」の講座を実施してはどうかという提案は、次代を担う子どもたちに地域の文化を伝えるという観点からも大事なのかなと思う。ぜひ事務局で検討していただき

たい。

流石委員：6 ページの3のご意見に関連して、中学校の部活動について、文科省では令和5年から土日は地域へ移行するとしている。少子化で学校単位では部活が成立しないし、教員の働き方改革からでもあるが、うまくいかないことは目に見えていると感じている。体制が整っていないところはどうか整えていくのか、市として社会体育の部分にどう移行していこうと考えているのか、社会教育委員としてどう関わっていけるのかということを考えている。

保坂委員長：地域で子どもたちを育てていくとなると、それなりの丁寧なアプローチの仕方をしていかないとうまくいかないと感じている。このあたりで次の議題に移りたいと思う。非常に貴重なご意見をいただいたので、お互いに共有して、今後に活かしていければと思う。

## ② 令和5年度社会教育の方針作成について

### — 資料No.2 に基づき事務局説明 —

保坂委員長：事務局から説明があったように、市の第7次総合計画が策定中であり、第3次総合教育プランも同様ということで、それを踏まえて、来年度の社会教育の方針を作成するという事なので、そういう事情も含めていただいて、今後皆さんからもご意見等を寄せていただきたい。

流石委員：「地域ぐるみの教育の推進」という項目があるが、先ほどお話しした部活動の地域移行に関して、スポーツ推進課、社会教育課、学校教育課が関係していると思うが、そういったこともこの方針に含めてもらってもいいのかなと考える。

保坂委員長：部活動の地域移行という大きな変わり目になるので、示されていてもいいのかなと思う。事務局のほうで上位計画を含めて関係課と情報を共有しながら進めていっていただきたい。

## ③ その他

### ■ 令和4年度社会教育委員に関する会議等日程について（質疑なし）

— 資料No.3 に基づき事務局説明 —

保坂委員長：生涯学習現地研修会は、上越地区社会教育委員連絡協議会主催で、上越地区3市の社会教育委員が30名ほど参加する予定。上越市の理事でコース等も検討し、コロナ対策として少人数の班に分けようかという案もあったのだが、見学先の施設の都合等もあり、班分けはせずに全員で見学先を回る予定にしている。また、町家周辺に駐車場は多くないので、教育プラザに集合しバスで移動という形になると思うのでご承知おきいただきたい。

(4) 閉会

9 問合せ先

上越市教育委員会社会教育課

TEL：025-545-9245（内線1260）

E-mail：shakaikyouiku@city.joetsu.lg.jp

10 その他

別添の会議資料も併せてご覧ください。